

身代山由来記 写 (加藤家文書)

(表紙)

「 身代山由来記 写

神職

加藤福泰 (花押)

」

身代山由来記

武蔵の国埼玉郡太田荘百間領須賀村身の代大明神ハ当国の惣社大宮郷氷河大明神の往其此所にひもろきびき立奉励奉而ちるん身の代大明神と号し奉而事は天照大神の御弟素戔鳴の御神全々の精氣にして性常哭患このミス山哉かき山とるし国生人を天折し播種子串刺生利逆利溝を埋樋はるち日の神斎機殿に座々時天の班駒をうつはぎたしてなげ入機殿を穢しあるハ尿戸是津みの甚し父母の神素戔鳴尊を遠き根の国を馭む千座の置座に多の神宝をよざし手の爪足のつめを思出しめ底の国にいたらしむとなん此ゆへにすさをの尊を此さとに身の代大明神とあかめ祭りけりし見こといつもの国にいべしと大蛇したがへ尾にありしつるきを日の神にたてまつらせ為ひて後御志たいらかにあめか下おだやかに国とみさかへ百の穀とこしえにして子の国にうつりましてハ大国玉の明神と現ハれ世人大黒天といふ其上王城に鎮座て山王大権現とあかめ尊のいさおし火のかわき水のなかるゝかことく水生月の大祓にしてハ牛頭天王となしせつみとかを塩の八百尼にはらひなさしめ神海人而所なりつらしめやしまことに日々におこたる事なかれ須賀村と名付そめしも兄こと大地をきりぬひ我心すかすかしのなふによりかく名付け候也もろこしの文字に移し見きは須賀性清の字ならんあるいたしこし